

# 歴史の教訓

巨大なローマ帝国繁栄の基礎は奴隷による低コストの産業構造によるものである。

現代において、いまだ神の領域の原子力を奴隷と扱い、支配下に置き管理したと錯覚。いかなる場合においても暴発や、反乱が起きないと明言し今日まで推進してきた。

安全と低コストを喰い、経済成長を推進してきた。

ローマ帝国の末路は、奴隷の供給が停止、すなわち領土の拡大が停止が最後、必然的に急速に衰退した。遺跡を見るとおり次世紀の観光資源です。

福島原発は第二の原爆ドーム、負の観光資源を作り出したのです。日本はアメリカのサンプル、食料・医療・医薬品を含めた巨大な市場の実験場と言えないか。

国防に見ても自分たちのことは自らの力で解決する。福祉にしても同じこと。自立の精神と気概を全く喪失してしまつた。

最近の特徴は、国民が狭い利己的な要求の追求に邁進、自分たちのエゴを自制す

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2012年8月13日 (月) NO. 264

地域から明るい未来を作ろう

## 消費増税が雇用減とシャッター街を招く

ることを忘れていて、

がん細胞は自ら体内で作出したもの、プルトニュームも人類が地上に作り出したのです。

多くの最良とされる判断基準は、その時点のもので、

実際に最良と判断した結果の殆んどが、最良だったとは言えないのが大半です。

なぜそうなるのか。判断基準は過去の経験で無意識に過去の再現を希望し想定しているから、

時代に合致していないのです。

過去の経験から未来を見据えているのです。未来から現在に至る実際を全く見ていません。

それは未来が見えないし経験が出来ないからです。

したがってその判断の額が大きいく、安全だと判断するほど致

根幹を奴隷制度・原子力政策に依存する弊害を無視しては、人類の教訓が全く生かされていない。

太平洋戦争の敗因も十分に検証されていません。環太平洋の経済戦争(TPP)も引きずられ敗戦を重ねる現実が見えないのか。

これまで日本の失敗自体が

命的なリスクが伴う場合が多いのです。この重大な危機に完全に気付くのは早くとも半年。

資金が全額借入金の場合、気付いても修正や転換の行動が取れないのです。行動すれば現実に損失が顕在化し確定する

## 小欲は大欲に劣る

ため、また自分の判断が誤っていたのを自ら認めることですから苦しい決断です。

神や天才でない以上、自分が最善とした決断は95%以上誤っていると謙虚に自覚すべきなのです。

また、時代の大局に抗する努

原発しかり十分に検証されていません。その意味でも日本は倒産会社です。

可能性を信じる人の問題はありますが明らかに「はやぶさ」は失敗を糧に、地球に帰ってきただのです。



力は銀行に奉仕、隷属すること、努力の割りに意味がないことが多いものです。

従い失敗の対策は、致命傷にならない準備と撤退基準・損失額・率を確立して、自分以外を巻き込まないことが大切です。

また未来に投資する時、時期が適当かも良く判断すべきです。

正しい事を、ぶれないで継続する経験の中で、自然と判断基準が定まるものです。

そして自分を信じ切れるかです。未来を作るのが、真の経営者なのですから。